

第40回 教育研究全国大会(宮崎大会)

第2分科会 学習指導B

体育授業における主体的で対話的で深い学びの実践
～カリキュラム・マネジメントの視点から～



提案者 千葉県教職員連盟

八千代市立八千代台東小学校

教諭 本田 将貴

体育授業における主体的で対話的で深い学びの実践 ～カリキュラム・マネジメントの視点から～

提案者 千葉県八千代市立八千代台東小学校 教諭 本田 将貴

1 提案主旨

近年の全国学力・学習状況調査の結果から、子どもたちの抱える課題の傾向として、目的や意図に応じて自分の考えの根拠を明確にし、まとめて書いたり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりすること等が指摘されている。また、学習指導要領では、児童生徒が未来を切り拓いていくためには、学校教育において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性」の3つの資質・能力を育成することが必要であるとしている。

これらを獲得し、他の学習や生活の場面で活用できるような確かなものに高めるためには、子どもたちが興味関心を原動力として、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、主体的・対話的に課題解決に取り組むことにより、深い学びを実現することが重要である。教師は、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を十分に理解した上で、子どもたちが習得した知識を相互に関連付けたり、身に付けた思考力を発揮したりしながら課題解決を図る授業を、カリキュラム考案段階からデザインしていかなければならない。

これを実現するには、子どもたちの興味・関心を引き出す発問、課題意識が連続する単元構成の工夫、対話を通じて自他の考えを吟味する協働的な場の設定等、学び全体を見通して、常に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」という3つの視点で授業改善を図ることが必要である。そして、これらの実践が各発達段階の学習において、系統性をもって繰り返されることで、3つの資質・能力が更に確かなものになり、子どもたちが未来を切り拓いていくための、新しい価値を創造する力を身に付けさせることができると考える。

本発表では、学びの連続の中で子どもたちに確かな資質・能力を育む方策について、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点に立った体育授業の在り方と具体的な実践事例を紹介する。

2 はじめに

本校の前身である旧八千代台東小学校では、1965年（昭和40年）の開校以来、体育科の運動領域を中心に校内研究を行ってきた。地域の児童数の減少から、2013年（平成25年）に、当時、保健・食育領域を研究していた八千代台東第二小学校と統合し、現在の八千代台東小学校となった。校内研究の内容については、二校の主要素を融合させた「健康教育（運動・保健・食育）」とし、研究主題を「心も体も健やかな子どもの育成」と設定した。

今年度で統合から10年目をむかえた本校だが、時代の流れを考慮して研究の在り方を見直す段階に入っている。今年度は、今一度体育科の運動領域のみに焦点を当て、低中高学年部会に分かれることで、系統性を考慮しながら校内研究を行っている。しかしながら、これまで力を入れてきた保健・食育領域それぞれの実践や、充実した教材資料と工夫を凝らした教具は、現在でも職員に活用・改良されながら引き継がれている。

本校では、学校教育目標の「世界とつながる、人間性豊かな子どもの育成」を達成するための研究主題として、「心も体も健やかな子どもの育成～見付けて、考えて、伝えて、わかって、できて、楽しい授業づくり～」を5年前から掲げている。学習過程や発問を工夫することで、体育の苦手な児童にも意欲的に学習に取り組めるような授業づくりを行い、生涯にわたって運動に親しむための素地を培うことがねらいである。本提案において、本校の日々取り組んでいる校内研究としての実践が十分に伝わることを願う。

3 提案内容

(1) 主題設定の理由

① 学習指導要領より

平成29年3月に公示された学習指導要領における、小学校体育科の目標は以下の通りである。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) その特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。

学習指導要領の改訂に伴い、目指すべき資質・能力が3つに整理された。小学校体育科において知識が位置付き、技能と結びついた「知識及び技能」となった。さらに、「習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること」が挙げられ、従来の「思考・判断」ではなく、「思考力・判断力・表現力等」となることで、より具体的で言語的な関わりがさらに重要視されるようになった。

② 千葉県教育委員会の「学校教育の充実のためのホームページ」より

また、「第3期千葉県教育振興基本計画を踏まえ、各学校・園において重点的に取り組んでいただきたい事項」には、以下のように示されている。

(1) 体力向上を主体的に目指す子供の育成

幼児児童生徒たちが自ら考え実践し、仲間と協力しながら目標に向かって運動できるよう「楽しさ」を感じられる授業改善に取り組む。

(2) 子供の健康を守る学校保健の充実

生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育てるため、体育・保健体育などの教科での学習を中心として、学校の教育活動全体を通じて保健教育に取り組む。

この2点はそれぞれ、運動・保健の2領域を表している。そこで、上記の指針をもとにし、昨年度までの研究をさらに深めるべく、体育科について研究を進めていくこととする。

そこで、本校の研究では、学習における課題を「見付けて」、その課題の解決に向けて「考えて」、その中でわかったこと・気付いたことを他者に「伝えて」、運動や健康に関する知識が「わかって」、

より効率よく技能を習得するためのポイントや健康を保持増進するための実践力を身に付け（「できて」）、児童全員が「楽しい」と感じられる授業を通して、研究主題である『心も体も健やかな子どもの育成』を目指す。そして、この研究主題及び副題の達成を目指すとともに、その先にある学校教育目標「世界とつながる、人間性豊かな子どもの育成」を追究していく。

(2) 本校の研究イメージ

学校教育目標

世界とつながる、人間性豊かな子どもの育成

研究主題

心も体も健やかな子どもの育成

運動領域
(体育)

健康領域
(保健)

授業における6つの視点

- ① 見付けて … 学習の課題の発見すること
(例) ・自分のシュート課題点を見付ける。
・こうもりふり下りができるようになるためのポイントを見付ける。
・よく風邪をひく人と健康な人の違いを見付ける。 など
- ② 考えて … 課題の解決に向けての思考・判断すること
(例) ・上手くシュートが入らない理由を考える。
・こうもりふり下りができるようになるためのポイントを考える。
・よく風邪をひく人と健康な人では何が違うのかを考える。 など
- ③ 伝えて … 他者(友達や教師)に見付けたポイントを伝えたり、考えたことを共有したりすること
(例) ・上手くシュートが入らない理由を伝える。
・こうもりふり下りができるようになるためのポイントを伝える。
・よく風邪をひく人と健康な人では何が違うのかを伝える。 など
- ④ わかって … 技能ポイントや知識を習得すること
(例) ・上手くシュートが入らなかった原因がわかる。
・こうもりふり下りができるようになるためのポイントがわかる。
・よく風邪をひく人と健康な人では何が違うのかがわかる。 など
- ⑤ できて … 技能や実践力を習得すること
(例) ・何度の学習を重ねて、上手くシュートを入れることができる。
・何度の学習を重ねて、こうもりふり下りができるようになる。
・風邪をひかないように工夫した生活を送ることができる。 など
- ⑥ 楽しい … 達成感を味わい、意欲が向上すること
(例) ・上手くシュートを入るようになり、学習が楽しくなる。
・こうもりふり下りができるようになることで、学習が楽しくなる。
・風邪をひきにくいので楽しく学校生活を送ることができる。 など

上記の6つの視点は、個人だけでなくチームにもあり、また、1時間の授業の中だけでなく単元全体にもある。これらを意識して取り入れることで、授業者だけでなく、参観者の視点も定まり、より授業を明快に見ることができるので、若い指導者の授業力向上にもつなげることができると思う。

(3) 研究の重点

重点1：学習過程の工夫

① 児童の実態や発達段階を考慮した柔軟な単元構成

→研究組織を低中高学年の3部会に分けることで、児童の幅広い発達段階に対応するとともに単元の特性を十分に生かして学習を進めることができる。例えば、中学年の「マット運動」では、基準となる技に固執しすぎることのないようにし、出来栄だけでなく、多くの技を経験させることを目的とする。これによって、苦手な児童にも学習を楽しむチャンスがたくさん与えることができる。さらに、5年生で技の高まりが見込める実態ならば、単元を長めに設定して、できる喜びをたくさん味わわせられるように工夫し、6年生の同単元はやや短めに単元を組む。また、器械運動の実態調査で基準技の達成度が明確になれば、その児童のスマールステップも明確になる。この習得までにかかる時間を「時数」として単元構成に取り入れる。このように、児童の実態や発達段階に応じ、単元の長さや、2学年を通した単元構成を工夫することで、より多くの児童に達成感を味わわせる。

② 「もとになる運動」及び下位教材の充実

→本校では、基礎感覚を養う運動を「もとになる運動」と称し、様々な技能を習得する助けとなる感覚作りを行っている。全ての児童ができる下位教材を授業に取り入れることで、心も体も主運動の学習に向かうための準備運動の役割を果たしている。低学年では遊び作り、中高学年では、その遊びで得た基礎感覚をさらに高めるための運動を行うことで、多くの技能習得を図る。

③ スマールステップを重視した段階的な指導の工夫

→「〇〇ができればめあて達成！次は△△ができればめあて達成！次は…」という技能習得の流れを、児童の実態に応じて細分化し、スマールステップの場や達成基準として授業に多く取り入れる。そのためには、指導者が技能習得につながる様々なスマールステップの場や指導方法を知っていなくてはならないので、放課後の実技研修や授業の中での試行錯誤を積極的に行っていく授業者を目指す。

重点2：効果的な発問の工夫

発問とは、指導内容に関連した問いかけ

- (1) ねらい達成につながる問いかけ（系統的に）
- (2) 児童の困り感を生みだしたり、考えたくなったりする問いかけ
- (3) 児童の興味をかきたてる問いかけ

☆児童の思考・判断を促す発問・声かけの例

① 学習課題を立てるための発問（『見付けて』）

- (例) 「Aくんの倒立が上手に見えるポイントはどこにあるんだろうね？」
「あとどんなポイントがあればBくんのこうもりふり下りは成功すると思う？」
「チームのみんなが得点するにはどうすればよいと思う？」
「Cチームの強さの秘密はどこにあるんだろう？」 など

② 学習課題を解決するための発問 (『考えて』)

- (例) 「どんな場でどんな練習をすればAくんの技に近づけそうかな？」
「Bくんが技に入る時にどんな声をかけてあげるといいかな？」
「どんな人にパスをすれば、パスがつながるかな？」
「どこでパスをもらおうとシュートにつながりやすいだろう？」 など

③ 他者(友達や先生)と考えを共有するための発問 (『伝えて』)

- (例) 「グループの友達の技のポイントはできてたかな？」
「どんな声をかけられたか教えてくれる？」
「動き方がわからない友達にどんな声をかけられたかな？」
「どこでパスをもらおうとシュートにつながりやすかったかな？」 など

④ 技能ポイントを理解させるための発問 (『わかって』)

- (例) 「倒立のポイントは3つあったよね。何だったか言える人いる？」
「こうもりふり下りをする友達への声かけに使ったキーワードは何だった？」
「パスがもらえる時ともらえない時の違いはどこにありそう？」
「前回学習した『相手と重ならないところに動こう』と、今日学習する『フリーな人にパスしよう』って、どんなつながりがありそう？」 など

⑤ めあての達成につなげるための具体的な発問・声かけ (『できて』)

- (例) 「視線はどこを見るんだっけ?」, 「しっかりマットの赤い線を見てごらん。」
「顔上げて!」, 「腕使って!」, 「次下りよう!」 (技を行う直前や技の最中に)
「どこに動くんだっけ?」, 「空いてる場所に動いて!」 など

⑥ 運動の楽しさをさらに広げるための発展的な発問・声かけ (『楽しい』)

- (例) 「じゃあ次は3秒止まってみよう。」, 「倒立してから前転もできるかな？」
「もっと大きく振ってみよう!」, 「着地の時に反対向きに着地できるかな？」
「もっと素早く声をかけてみよう!」
「前もって動き方を決めて、声かけなしでできるかな？」 など

⑦ 指導(めあて)と評価を結びつける発問・声かけ (指導と評価の一体化として)

- (例) 「この学習が終わった時に、全員が倒立をできるようになっていることを目指すよ。」
→ 「グループの全員が倒立をできるようになったかな？」
「できるようになるために必要なポイントはわかっているかな？」 など

(4) 体育科（運動領域）の授業モデル

① 器械運動の基本的授業モデル

基本的に、45分間を「もとなる運動」「基本の学習」「発展学習」に分け、学習を進めることとする。

【もとなる運動】

→運動の基礎感覚づくりの時間

- ・主運動（共通運動）につながるための運動
- ・運動の基礎感覚づくりを目的として行う運動

※必ずしも主運動につながる運動だけを行うというわけではなく、系統性を考慮しながら様々な技につながる運動を計画的に行う。



【基本の学習】

→基準となる技に挑戦していく時間

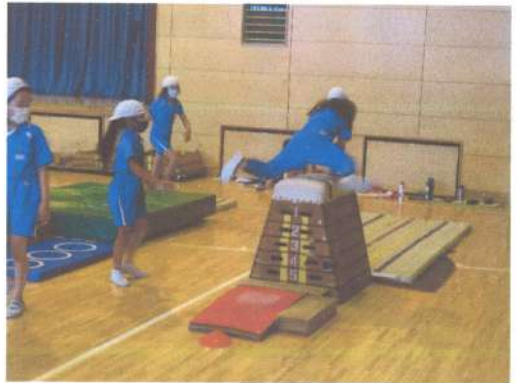
- ・個々の課題を設定し、その課題を解決するための運動とする。
- ・課題によっては、場を変更したり、友達とアドバイスをし合ったりすることで、自分の課題を達成できるようにする。
- ・教師は、学習板やワークシート、ICT機器などを活用し、個々の課題を把握し、評価する。



【発展学習】

→新しい技に挑戦したり、技を高めたり、できる技を連続させたり組み合わせたりする時間

- ・基準となる技として取り組んだ技以外の、あと少しでできそうな技に挑戦する。
- ・今できる技が、スムーズに連続してできるかどうかを試す。
- ・技の組み合わせ方を考え、できる技を組み合わせで挑戦する。（発表会に向けてなど）
- ・自分の課題に応じた場で、技を高めたり、広げたりできるようにする。
- ・できそうな技、やってみよう技に挑戦する。



A 低学年の授業モデル

		単元前半	単元後半
0		もともになる運動（遊び作りをしたり、遊びを通した基礎感覚づくりをしたりする）	
10	オリエンテーション	①固定遊具 ②歌遊び ③ゲーム化	
20		基本の学習①(遊びを精選して楽しむ) ○技のポイントをとらえさせる	基本の学習②(いくつかの遊びを順々に楽しむ) ○基本の学習①を生かした ランドめぐり
30		①言葉を通して	
40		②体感させて	発展学習
45		○遊びづくり	○チャレンジタイム

《特徴》

- ・「もともになる運動」を多く経験させ、多様な感覚を身に付けることを大切にす。
- ・「もともになる運動」では、固定遊具を使ったりランドを設けたりして、運動経験を増やす指導をする。
- ・単に運動させるのではなく、それぞれの場でどんな運動感覚を身に付けさせたいのか明確にし、指導をする。
- ・単元の前半の基本の学習では、「もともになる運動」から導き出された運動を取り上げ、場の工夫をしながら丁寧に指導する。
- ・教師の肯定的な声かけも大切にす、児童に意欲的に運動に取り組めるよう指導する。
- ・単元の後半は、児童の実態や指導する領域に応じて、基本の学習の中で発展学習の内容を設定する場合もある。

B 中・高学年の授業モデル

		単元の前半	単元の後半
0		もともになる運動 ① 基礎感覚づくり ②学習した技への取り組み	
10	オリエンテーション	基本の学習① ○基本技への挑戦 ○個人のめあてを主とした 運動への取り組み	基本の学習② ○できる技を高める
20		○全体で同じ技能ポイントを習得するための取り組み	発展学習②
30		発展学習①	○新しい技や自分のできそうな技に挑戦する
40		○新しい技や自分のできそうな技に挑戦する	○連続技や組み合わせ技に挑戦する
45			発表会など

《特徴》

- ・中・高学年では、「もともになる運動」「基本の学習」「発展学習」の流れを組み、児童の運動技能向上を図る。
- ・単元を通して、「もともになる運動」を特に大切にす、腕支持感覚や逆さ感覚、回転感覚を含めた運動の充実を図るとともに、それらと主運動がお互いにリンクしあうようにしていく。

- ・教師による一斉指導やグループで見合う学習を取り入れ、基礎・基本の定着を図るようにする。
- ・「基本の学習」では、1時間の授業の中で自己の運動技能に応じためあてをもち、そのめあてが達成できる場で等質の集団で個々のめあてを達成していく展開と、全員が同じ課題をもち、課題を達成するために異質の集団で個々のめあてを達成していく展開を行う。どちらの指導にするかは、展開する領域や児童の実態、教師の指導力によって判断する。
- ・「発展学習」では、新しい技や自分の出来そうな技に挑戦することはもちろん、単元の後半になってくると発表会に向けた連続技や組み合わせ技に挑戦できるように指導する。その中で、多くの技を習得させる。

②ゲーム・ボール運動の基本的授業モデル

【もともになる運動】

→そのボール運動を楽しむために必要な基本的な技能習得を目的とした時間

- ・単調な反復練習にならないよう、遊び(運動)の中で自然に個人技能が身に付くような運動。
- ・はっきりと評価できる(時間や回数、勝敗など)運動。
- ・個やグループで競争しながら取り組めるような運動。
- ・グループごとに取り組めるような練習でも、教師主体となった一斉指導の練習でも、全グループが全ての運動を経験するランド型の練習でもよい。



【基本の学習】

→メインゲームの特性を生かし、習得させたい技術的・戦術的な課題を達成する時間

- ・メインゲームの一部を切り取った運動で、チームの戦術を理解し、実践するための練習をする。
- ・メインゲームの中での反省をもとに、自分たちで考えた作戦を試したり、改善したりする。
- ・課題が明確なため、目的として学習しやすく、時間や回数、勝敗などで判断しやすい。・少人数で行うことで、一人一人の役割が重視される。



【発展学習】

→児童の実態に合わせて簡易化されたゲームを通して、運動の特性を味わう時間

- ・運動の特性に合わせて、基本のルールは教師が設定する。
- ・教師の定めたルールをもとに、児童から出た意見（願い）を組み込みながら展開する。
- ・「もとなる運動」、「基本の学習」での技能を発揮する時間とする。
- ・チームでの協力、友情、フェアプレーなども大切にしたいゲームを行う。

A 低・中・高学年の授業モデル

		単元の前半	単元の後半
0 10 20 30 40 45	オリエンテーション	もとなる運動 個人のスキルアップを目指す運動	
		基本の学習① ○運動（ゲーム）の特性を生かした運動 ○ゲームに必要な動きづくり	基本の学習② ○運動（ゲーム）の特性を生かした運動 ○チームの作戦に応じた練習 ○各チームの課題を解決できる運動 またはゲーム
		発展学習① ○下学年または単元の初めは、基本の学習のみになる場合もある 例 ハーフコートのゲーム、3対3のゲームなど ○勝敗だけでなく、基本の学習で行った学習を活用できるようにする ○チームで考えた作戦がうまくいっているか検証する	発展学習②
		○簡易的なゲーム（主に低学年） ○リーグ戦（主に中・高学年）	○発展的なゲーム（主に低学年） ○トーナメント戦（主に中・高学年） ○入れ替え戦（主に中・高学年）

《特徴》

- ・ボール運動領域では、基本的に「もとなる運動」「基本の学習」「発展学習」の流れを組んで授業を展開する。
- ※ボール運動は「ドリルゲーム」「タスクゲーム」「メインゲーム」としていたが、本校の特色である、「もとなる運動」「基本の学習」「発展学習」に統一することとした。
- ・ボール運動は一般的に得意・不得意が表れやすい運動であるため、苦手意識をもつことなく運動に取り組ませる必要がある。
- ・「もとなる運動」では、遊びの中で楽しみながら個人のスキルアップが図れるようにする。また、個人だけでなく、チームとして回数の伸びや勝敗を競いながら運動できるよう指導する。
- ・「基本の学習」では、対戦相手との運動を通して、習得すべき課題を学習できる時間とする。
- ・課題を明確にし、児童が進んで取り組めるような時間となるよう指導する。

- ・中・高学年において、「発展学習」では、作戦を選んだり考えたりしながら、それまでの基本の学習で学習してきたことを生かす。
- ・低学年では簡易的なゲームから始まり、単元の後半にかけて発展的なゲームにする。
- ・中・高学年では、前半にリーグ戦といった様々なチームと対戦できる展開を行い、単元の後半では、入れ替え戦を通して実力の近いチームと対戦ができるようにする。

(5) 授業の実践例

A 2年「鉄棒を使った運動遊び」

重点1：学習過程の工夫

① 児童の実態や発達段階を考慮した柔軟な単元構成

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
学習の進め方について 実態調査	固定施設遊び ・ジャングルジム ・うんてい ・のぼり棒 →遊びを提示する →児童と遊びを考える				もとになる運動② ・お話鉄棒① (大波小波→つばめ→水飲みつばめ→ふとんほし→前回り→ダンゴ虫) ・お話鉄棒② (足ぬき回り→跳び上がり→片足つばめ→鉄棒座り→後ろ下り→こもりふり→手つき着地)					鉄棒遊び発表会
固定施設遊び	もとになる運動① (1) 支えバランス遊び (2) くるくる遊び (3) ぶらさがり遊び (4) ふりふり遊び の4つの感覚を身に付ける遊び			基本の学習 ☆4つの感覚が楽しく身に付く遊びを使ってランド巡りをしよう！ ・グループで提示された課題にチャレンジ！ ・グループの友達と助け合いながらチャレンジ！ ・グループの友達とオリジナルの遊びを開発！						
	発展学習 ☆自分の好きなランドで遊ぼう！ ・得意な人に教えてもらおう！ ・ペアでランド巡り！ ・やったことのない遊びにもチャレンジ！									

- ・鉄棒運動で最も重要な4つの感覚（「支える感覚」「回る感覚」「ぶら下がる感覚」「振る感覚」）を十分に体感できるように、時数を多く設定して単元を組んだ。
- ・昨年度も、1年生で鉄棒遊びを行っているので、その内容に加えてさらに多様な遊びを取り入れた。
- ・発展学習のランド巡りを全員が楽しめるように、もとになる運動では基礎感覚づくりを十分にを行い、基本の学習ではオリジナルの遊びを考える時間を多く設けた。

② 「もとになる運動」及び下位教材の充実

- ・固定施設遊びでは、ジャングルジムやうんていやのぼり棒を使って自由に遊んだり、難易度を設定した課題を提示して取り組ませたりした。これによって楽しみながら、4つの感覚を身につける機会をつくった。

- ・お話鉄棒では、みんなでリズムよく同じ運動を行うことで、全体の基礎感覚のボトムアップを図った。

おはなしてつぼう♪①

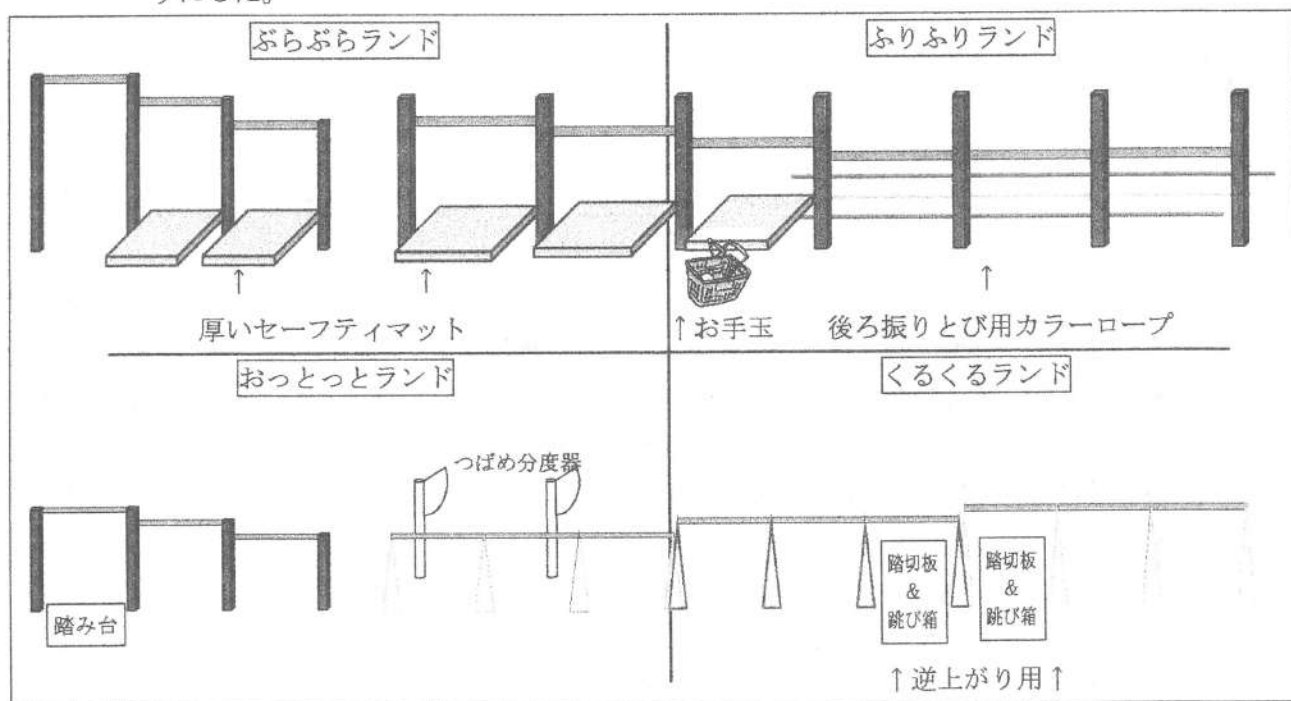
かぎかけて あんぜんかくにんガチャガチャガチャ
 大なみ小なみ 大なみ小なみ 大なみ小なみ 大なみ小なみ
 トントントーンで つばめさん1・2・3・4・5・6・7・8
 水のみつばめ 123
 もいちどのみましょ 123
 ふとんをほします
 ゆーらゆら ゆーらゆら ゆーらゆら ゆーらゆら
 まえまわりで だんごむし! 1・2・3・4・5・6・7・8
 がんばりました! ハイタッチ!

おはなしてつぼう♪②

かぎかけて あんぜんかくにんガチャガチャガチャ
 あしぬきまわり1・2・3・4・5・6・7・8
 トントントーンで つばめさん
 あしかけて かたあしつばめ1・2・3・4・5・6・7・8
 てつぼうすわりで はい!ポーズ1・2・3・4・5・6・7・8
 うしろにおります 123
 こうもりふりで ゆーらゆら ゆーらゆら ゆーらゆら ゆーらゆら
 ピタッとちやくち 123
 がんばりました! ハイタッチ!

③ スモールステップを重視した段階的な指導の工夫

- ・本単元構成そのものがスモールステップ学習の過程を踏んでおり、毎時間の活動で少しずつ基礎感覚づくりを行う場面をつくった。
- ・ランド巡りでは、場所によって鉄棒の高さを変えることで、児童自身が難易度を選択できるようにした。



重点2：効果的な発問の工夫

本単元では、児童がたくさんの遊びを見つけて、友達と交流しながら楽しく遊べるように、主に以下のような発問を取り入れた。

① 学習課題を立てるための発問 (『見付けて』)

- ・「こんな遊び方できるかな？」(1/10時間目)
- ・「〇〇さんが紹介してくれた遊びに何か付け足しできるかな？」(2/10時間目)
- ・「他にどんな遊び方ができそうかな？」(3～5/10時間目)
- ・「〇〇さんの遊び方の面白いところはどこかな？」(6～8/10時間目)

⑧ 運動の楽しさをさらに広げるための発展的な発問・声かけ（『楽しい』）

- ・「じゃあこんな遊び方はできる？」（2～5／10時間目）
- ・「〇〇さんみたいに上手に遊べるかな？」（6～8／10時間目）
- ・「補助なしで、1人でできるかな？」（7～9／10時間目）

B 4年「鉄棒運動」

重点1：学習過程の工夫

① 児童の実態や発達段階を考慮した柔軟な単元構成

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
オリエンテーション	もとになる運動											
	・棒下振りとび			・つばめ			・水飲みつばめ			・前回り下り		
	・がんばりっこ			・後ろ振り跳び			・逆上がり					
もとになる運動	基本の学習①			基本の学習②			基本の学習③					
	・こうもり振り下りに挑戦しよう。			・後方両ひざかけ回転に挑戦しよう。			・後方片ひざかけ回転に挑戦しよう。					
	発展学習											
	・できそうな後方足かけ回転系の技に挑戦したり，できる技を組み合わせたりしよう。											
												4年3組鉄棒発表会

- ・3年生で鉄棒運動を行う機会が少なかったため、時数を多く設定した。
- ・後方片膝かけ回転を基本技とする本学習をより楽しむために、組み合わせ技として取り入れやすいこうもり振り下りと後方両膝かけ回転を事前に学習する構成にした。
- ・発展学習では、鉄棒が苦手な児童でも楽しめるように、低学年で行った遊びに取り組んでもよいことにした。

② 「もとになる運動」及び下位教材の充実

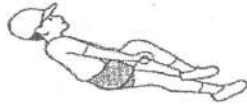
- ・鉄棒運動にとって最も重要な4つの感覚を習得しやすい運動を設定した。
- ・単元の序盤は、もとになる運動の一つずつ丁寧に教え、児童がポイントを言えるようになってきた段階で、グループごとに行う方法に切り替えた。
- ・児童同士が見合いを行うことで、互いにできたかどうかを確認する機会を設けた。

③ スモールステップを重視した段階的な指導の工夫

- ・こうもり振り下り、後方両膝かけ回転、後方片膝かけ回転の3つの技が習得しやすいように、スモールステップの流れがわかりやすいステップカードを活用した。
- ・ステップカードに記載された課題の一つずつクリアしていくことで達成感を味わうとともに、自分の現在地を確認する手段としても活用した。

後方片ひざかけ回転 ステップカード

名前 _____



①ひじと背中を伸ばして、片足つばめになる。

②「せーの！」でいきおいをつけて、鉄棒を強く押し、片ひざに鉄棒をかける。

③鉄棒を押したいきおいをなくさないように、頭を遠くに振り、体全体で大きく回ろうとする。←恐怖心克服！！

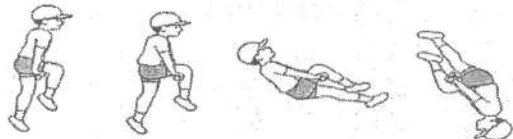
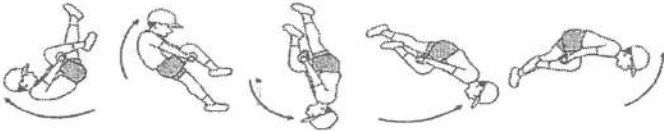
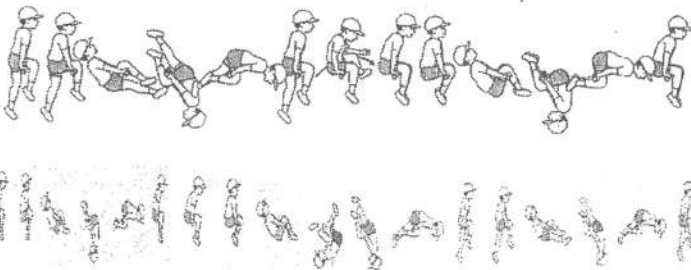
④ふる足は鉄棒に近づけたまま顔が上がるまで勢いをなくさないようにする。

⑤上がれそうなタイミングで、ひじ曲げて手首返し、背筋伸ばす。

⑥ひじと背中を伸ばした片足つばめにもどる。

☆できそうなところから始めよう！とにかく練習あるのみ！！

もしもつまずいたら、前にもどったり、先生に補助してもらったり、友達に見てもらったりしよう！！

ステップ	イメージ	ポイント	OK
1	こわくて後ろに下りられない、いきおいよく下りられない時は・・・ 鉄棒に座った形から下りる練習 	①鉄棒に片足をかけよう！ (先生や友達に補助してもらってもOK) ②おしりからゆっくり下りてみよう！ ③できるだけ、いきおいよく下りてみよう！	
2	いきおいよく振れない、上まで上がれない時は・・・ 片ひざかけ振り → 片ひざかけ振り上がり 	①あご、頭、首、体全体を使って振ってみよう！ ②前にある物や友達を見よう！ (できるだけ上の方を見られるとグッド!) ③上まで上がれる人は上がってみよう！	
3	ここまでできたら、上のポイントに気をつけて「後方片ひざかけ回転」に挑戦しよう！		
4	後方両ひざかけ回転もできる人は『チェンジ』に挑戦！ 後方片ひざかけ回転 ⇄ 後方両ひざかけ回転 	①連続での「後方片ひざかけ回転」に挑戦しよう！ ②頭が下に下りるタイミングで足を出し入れしよう！	
5	ここまでできたら、好きな「上がり技」と「下り技」を入れて『組み合わせ技』に挑戦してみよう！！		

こうもり振り下り ステップカード

名前 _____



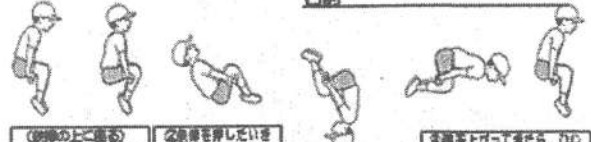
- ①足をつけて、こうもりの形になる。
- ②全身を屈んで腰の位置がいまをつけろ。
- ③腰が尻尾の高さまで下げたら、腰を上げたまふ足をはずす。
- ④腰を上げたまま、ひざを同時に突き上げ、背中を丸めて進む。

★できそうなところから始めよう！とにかく練習あるのみ！！
もしもつまずいたら、前にもどったり、先生に補助してもらったり、友達に見てもらったりしよう！！

ステップ	イメージ	ポイント	OK
1	上手に腰がたれ、いざよいよく腰がたれ... 「足をつけてこうもり」	①足をかけたまま、できるだけ体の力を抜いてみよう！ ②腰、股、ひざ、こしなど、全身を屈んで腰をつけてみよう！ ③腰を下げる時に尻尾の高さを見よう！（できるだけ上の方を見られるとグッド！）	
2	腰が上手にたれ、腰に手を置いてみよう... 「腰を上げてこうもり」	①腰を上げたまま、手を置いてできるだけ腰を上げよう！ ②腰を上げたまま足をはずしたら、ひざをがくさくさのようにのびにぶくよう！	
3	ここまでできたら、上のポイントに気をつけて「こうもり振り下り」に挑戦しよう！		
4	こうもり振り下りができる人はこれに挑戦！ 「腰を上げてこうもり振り下り」	①まずは、ゆっくりと後ろに下りて、背中を丸くそう！ ②後ろに下りてから「こうもり振り下り」の形になる。 ③後ろに下りてから一度で腰が尻尾の高さになるように練習しよう！	
6	「4」ができる人はこれに挑戦！できるが？ 「腰を上げてこうもり振り下り」	①まずは、「後方両ひざかけ回転」に挑戦しよう！（ひざかけ回転） ②順番で「後方両ひざかけ回転」に挑戦しよう！ ③一回だけ、後ろに下りたタイミングで手をはなして、腰が上がってきたら足をはずそう！	

後方両ひざかけ回転 ステップカード

名前 _____



- ①「後一ひざ」でいい腰をつけて、尻尾を強く押し、両ひざに尻尾をかける。
- ②尻尾を押しださず、いざよく腰をつけて、腰を強く振り、全身が大きく後ろに倒るうとする。
- ③腰が上がるまで腰を強くしないようにする。
- ④腰を上げてきたら、ひざを曲げて、ひざをのびにぶくつ、背中を丸めて腰がたれになる。

★できそうなところから始めよう！とにかく練習あるのみ！！
もしもつまずいたら、前にもどったり、先生に補助してもらったり、友達に見てもらったりしよう！！

ステップ	イメージ	ポイント	OK
1	こわくて後ろに下りられない、いざよいよく下りられない... 「後一ひざ」	①まずは、尻尾に腰をつけてみよう！（先生に補助してもらってもOK） ②後ろからゆっくり下りてみよう！ ③できるだけ、いざよいよく下りてみよう！	
2	いざよいよく腰がたれ、上まで上げられる... 「腰を上げてこうもり振り下り」	①腰、股、ひざ、全身を屈んで腰をつけてみよう！ ②腰にある尻尾の高さを見よう！（できるだけ上の方を見られるとグッド！） ③上まで上げる人は上げよう！	
3	ここまでできたら、上のポイントに気をつけて「後方両ひざかけ回転」に挑戦しよう！		
4	こうもり振り下りができる人はこれに挑戦！ 「腰を上げてこうもり振り下り」	①まずは、「こうもり振り下り」に挑戦しよう！（ひざかけ回転） ②順番で「後方両ひざかけ回転」に挑戦しよう！ ③後ろに下りたタイミングで手をはなして、腰が上がってきたら足をはずそう！	
6	「4」ができる人はこれに挑戦！できるが？ 「後方両ひざかけ回転」	①まずは、「後方両ひざかけ回転」に挑戦しよう！（ひざかけ回転） ②順番で「後方両ひざかけ回転」に挑戦しよう！ ③腰が下り下りたタイミングで足をはずし入れよう！	

重点2：効果的な発問の工夫

本単元では、全ての児童が自ら進んで意欲的に学習に取り組めるようにするために、主に以下のような発問を取り入れた。

② 学習課題を解決するための発問 (『考えて』)

- ・「後方片膝かけ回転のポイントは何だと思う？」(8～9/13時間目)
- ・「〇〇さんが成功するには何が必要だと思う？」(3～9/13時間目)
- ・「〇〇さんが上手なところはどこかな？」(10～12/13時間目)

③ 他者(友達や先生)と考えを共有するための発問 (『伝えて』)

- ・「後方片膝かけ回転のポイントを近くの友達に伝えられるかな？」(8～9/13時間目)
- ・「〇〇さんの成功のためにアドバイスしてくれる人いる？」(3～9/13時間目)
- ・「〇〇さんが上手なところを教えてくれる人いる？」

⑤ めあての達成につなげるための具体的な発問・声かけ (『できて』)

- ・「目線はどこ？」
- ・「顔上げて！」
- ・「腕使って！」
- ・「次下りよう！」
- ・「頭を遠くに！」
- ・「お尻上げて！」

(全て3～12/13時間目)

(6) 校内の研究体制

①本校の研修体制イメージ図



学校教育目標

世界とつながる 人間性豊かな子どもの育成

めざす学校の姿

- ・安心・安全な学校
- ・保護者・地域と共に歩む学校
- ・挨拶・笑顔・やさしさのあふれる学校

めざす子どもの姿

- ・何事に一生懸命に取り組み、自ら学び続ける子
- ・思いやりがあり心豊かな子
- ・何事も最後までやりぬく、健康でたくましい子

めざす教師の姿

- ・常に学び続け、向上心を持つ教師
- ・常に子どもに寄り添う教師
- ・常に明るく、公平・公正に接する教師

自己実現・自己教育力

- ・個別最適な学び・協働的な学び
- ・言語活動の充実
- ・特別支援教育の充実

開かれた学校づくり

- ・教職員の授業力向上
- ・教職員のモラルアップ
- ・教育環境の整備充実

可能性を伸ばす教育

- ・思いやりのある心の育成
- ・健康でたくましい身体づくり
- ・生徒指導の充実

学級経営の充実！

各研修を生かした実践をもとに…

体育・健康教育の充実

- ・公開研究会
- ・研究授業
- ・体育単元計画完全実施

教科指導研修の充実

- ・ESD教育研修
- ・キャリアに応じた授業研修の実施

児童理解につながる研修

- ・人権・いじめ防止研修
- ・不祥事防止研修
- ・特別支援研修

教師としての資質向上を図るために…

② 研究体制の在り方

本校の研究は①のイメージ図のように、全職員が行う研修の一環として組み込まれている。ここで重要なポイントは、「学校体制で行う」ということである。研究や授業づくりは、とすれば個人研究になりやすい。それを避けるために、校内の研修体制の1つとして研究を位置付けている。教材研究や教具作り等は、学年及び学団で行い、学年で同じ単元を同時に行うことを徹底している。また通年で、全学年の体育の単元計画の提出を義務化している。これによって、体育授業の内容の学年差や学級差をなくすことができている。

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 学習過程の工夫を行うことで、カリキュラムを柔軟に考えることができ、多くの児童が意欲的に学習に取り組むことができた。
- ② 児童の実態や発達段階を考慮した柔軟な単元構成を行うことで、より深く児童の実態を把握する必要性が生まれ、教材の特性と児童の実態がマッチした密度の濃い授業を行うことができた。
- ③ 「もとなる運動」及び下位教材の充実を行うことで、系統性の意識が児童にも教師にも芽生え、加えて、多くの児童の基礎感覚が養われた。
- ④ スモールステップを重視した段階的な指導の工夫を行うことで、運動の見方・考え方を育てるだけでなく、多くの児童に技能の向上を実感させることができた。
- ⑤ 効果的な発問の工夫を行うことで、児童の興味・関心を引き出すだけでなく、深い学びにつながる思考機会を与え、技能習得だけに留まらない運動への理解を促すことができた。
- ⑥ 全ての単元で、見合い・伝え合い・教え合いを行うことで、主体的・対話的に課題解決に取り組ませることができた。

(2) 課題

- ① カリキュラムを柔軟に考えることが、他教科や他単元の進度や時数にも影響を与えてしまった。
- ② 前年度までの積み重ねが少ない単元では、「もとなる運動」や下位教材を行う時間が多く必要となり、時数超過の要因となってしまった。
- ③ 授業者の技のスモールステップの理解に差があったため、技能の学級差が生まれてしまった。

5 おわりに

これからの時代において重要なことは、全ての教師が自分自身のパフォーマンスを最大限に発揮しながら、前向きな思考のもと、子ども達が生きる上で必要な力を身につけさせることである。そのために、適度な全学年統一の体制を学校運営に取り入れることは不可欠である。教師と児童両者の迷いを消し、生き生きとした教育活動を行う上で、皆がバラバラな考えを実行することは非効率だ。本校においては、校内研究こそが皆に意思統一を図るツールだったのだと感じている。

目の前の授業の改善には、学級、学年、学校体制を見直す必要がある。今後も、ミクロの視点で変革できることを見つけ、実行に移していくことが、授業改善に確実に影響するだろう。近年の多種多様な教育課題に負けぬよう、常に目の前の子どもの成長を願い、その実現のために学校体制でできる取り組みをこれからも模索していきたい。

資料1

器械運動学年別指導表 マット運動

種目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
回転系	<p><逆さ感覚&腕支持感覚></p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの足うち トの字倒立 ・クマ歩き 手押し車 ・大の字回り 壁登り逆立ち ・壁倒立 川跳び ・うさぎ跳び 	<p>前転</p> <p>後転</p>	<p>跳び前転</p> <p>開脚前転</p>	<p>開脚前転</p> <p>開脚後転</p> <p>跳び前転</p>	<p>伸膝後転</p> <p>伸膝前転</p>	
倒立系	<p><転がる感覚></p> <ul style="list-style-type: none"> ゆりかご ・大きなゆりかご えんぴつ転がり・前転がり・後ろ転がり <p><体の締め></p> <ul style="list-style-type: none"> タワー ・ゆりかご えんぴつ転がり 	<p>壁倒立</p> <p>補助倒立</p> <p>側方倒立回転</p>	<p>側方倒立回転</p>	<p>倒立前転</p>	<p>ホップ側方倒立回転</p>	
発展技		<p>跳び前転</p> <p>開脚前転</p>	<p>いろいろな前転</p> <p>開脚後転</p> <p>伸膝後転</p>	<p>いろいろな前転</p> <p>開脚後転</p> <p>伸膝後転</p>	<p>ロンダート</p> <p>ハンドスプリング</p>	
			<p>同じ技での「連続技」で発表会</p>	<p>いろいろな技の「組み合わせ技」で発表会</p> <p>いろいろな技の「集団演技」で発表会</p>		

※黒塗りになっている部分が中心に指導する種目です。(スタンダード)

資料 2

器械運動学年別指導表 跳び箱運動

種目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	開脚跳び (縦向き)	<踏み切る感覚> ・またぎ越し ・タイヤ跳び ・踏み越し跳び ・ケンパー跳び <腕支持感覚> ・かえるの足うち ・川跳び ・馬跳び ・うさぎ跳び ・またぎ乗り&下り ・腰上げ	<回転感覚> 台上前回り <逆さ感覚> ・かえるの足うち ・川跳び ・トの字倒立	4段20cm	4段40cm 安定した動きで跳び越える	5段60cm 大きな開脚跳び
かかえこみ跳び (横向き→縦向き)	<高さ感覚> ・跳び上がり跳び下り <回転感覚> 台上前回り <逆さ感覚> ・かえるの足うち ・川跳び ・トの字倒立	<高さ感覚> ・跳び上がり跳び下り <回転感覚> 台上前回り <逆さ感覚> ・かえるの足うち ・川跳び ・トの字倒立	4段20cm	4段40cm 突き放しをしつかりとして跳び越える	5段40cm 安定した動きで跳び越える	5段40cm (縦向き) 安定した動きで跳び越える
台上前転 (縦向き)	<逆さ感覚> ・かえるの足うち ・川跳び ・トの字倒立	<逆さ感覚> ・かえるの足うち ・川跳び ・トの字倒立	3段20cm	4段40cm 後頭部をつけて回る	5段40cm 後頭部をつけてスムーズに回る	5段40cm 膝を伸ばしてスムーズに回る
スプリング系	まだぎ乗り下り ハー跳び	まだぎ乗り下り ハー跳び			首はね跳び (ネックスプリング) 頭はね跳び (ヘッドスプリング)	首はね跳び (ネックスプリング) 頭はね跳び (ヘッドスプリング) ハンドスプリング

※黒塗りになっている部分が中心に指導する種目です。(スタンダード)

資料3

器械運動学年別指導表 鉄棒運動

種目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
基本技につながる動き	<逆さ感覚> ・ぶたのまるやき ・地球回り <腕支持感覚(体の締め)> ・つばめ ・がんばんりっこ(だんごむし) ・そりくぐり ・後ろ振りとび <回転感覚> ・足ぬき回り	・こうもり ・ふとん干し ・水飲みつばめ ・棒下振りとび ・跳び上がり ・前回り下り	こうもり	片膝つばめ	逆上がり	跳び上がり
	がんばんりっこ	がんばんりっこ 足ぬき回り	こうもり歩き	膝かけ振り	連続逆上がり	連続前回り
基本技	前回り下り	逆上がり	こうもり振り下り	後方片膝かけ回転 (補助)	後方支持回転 (補助)	かかえこみ回り
	後方片膝かけ回転	後方片膝かけ回転	連続後方支持回転 ともえ 組み合わせ技	連続後方支持回転 ともえ 組み合わせ技	連続前方支持回転 組み合わせ技	前方支持回転
発展技	<振る感覚> ・こうもり振り ・ふとん干し振り	・膝かけ振り	ブラックこうもり	後方両膝回転 チェンジ 組み合わせ技	連続後方支持回転 ともえ 組み合わせ技	連続前方支持回転 組み合わせ技
	前回り下り	逆上がり	こうもり振り下り	後方片膝かけ回転	後方支持回転	前方支持回転

経験させたい技	上がり技	逆上がり	膝かけ振り上がり	連続逆上がり	両足踏切の逆上がり
	回転技	かかえこみ回り	後方片膝かけ回転	後方支持回転	前方支持回転
	下り技	前回り下り	転向前下り	グライダー	棒下振り出し下り

